

されるがま魔女

さく・が からし子



ある霧^{きり}ぶかい 森^{もり}のおくに、100 ねんのあいだ 生きつ
づける 魔女^{まじょ}がすんでいました。

魔女^{まじょ}は おさないころに 不老不死^{ふろふし}のじゅつをつかい、
としをとることも 死ぬ^しことも なくなりました。

森^{もり}には わかい女性^{じょせい}を つれまったり、 犯^{おか}してしまう魔^ま
物^{もの}が たくさんいます。

魔女^{まじょ}も これまで魔物^{まもの}に 犯^{おか}されることが なんともあ
りました。

しかし、だれかをきづつけることがきらいな やさしい
せいかくの魔女^{まじょ}は、「死^しなないからだだから」と、魔物^{まもの}
のきがすむまで いつもおとなしく 犯^{おか}されてあげてい
ました。



ある日、魔女がいつものように 森で魔法のざいりょう
を あつめていると、 そこに ゴブリンが やってき
ました。

ゴブリンは 魔女がきていた ロープを めがし、 魔女
の せなかに しがみつきました。

「ギヒヒッ、 ヒサシブリノ ニンゲンノ メス！ 交
尾！ 交尾スル！」

そう 言いながら、 ゴブリンは 勃起した ちんぽを
魔女の まんこに こすりつけます。



ゴブリンは ^{まじょ}魔女のまんこに ちんぽをいれると、 は
げしく こしを うごかしはじめました。

とっせんの できごとに おどろきつつも、 ^{まじょ}魔女にとっ
ては いつもの ことです。

いつもどおり まんぞくするまで からだを つかわせ
てあげる ことにしました。



ゴブリンの　こしのうぶきは　いっそう　はげしくなり、
グチョグチョと　音をたてています。
「ウギギッ、モウ　射精ル！　ゼンブ　中二出ス」
ゴブリンは　ひくひくと　けいれん　しながら、　魔女
に　おもいきり　精液を　そそぎました。



ゴブリンが 魔女^{まじょ}から ちんぽをひきぬくと、 まんこ
から とろとろと、 精液^{せいえき}が こぼれだします。
「もう、まんぞく したのかな?・・・」 そんなことを
おもう 魔女^{まじょ}でしたが、 まだ まんぞくしてない ゴ
ブリンは、 しがみついたまま はなれません。



すると そこにもう1匹^{ヒナ} ゴブリンが あらわれました。
「ギヒッ オレモ メスノ穴 ツカウ! 交尾スル!」^{コウビ}
そういと 魔女にしがみつき、 まんこに^{ぽっき} 勃起した
ちんぽを さしてみました。



「ギヒッ オレ、^{しり}尻ノ^{あな}穴 ツカウ！」^{せなか}背中に しがみ
ついたままの ゴブリンは ^い言いました。

^{まじょ}魔法の ことなんて おかまいなしに、^{ひま}2匹は はげ
しく こしを うごかしつづけます。

そして、 とくどくと きもちよさそうに、 のこらず
^{せいゑき}精液を そそぎつめました。



精液^{せいえき}を 出しきり^だ 2匹^{ふたひき}は まんぞくした ようすで、

どこかへ さっていきました。

魔女^{まじょ}の あなを や まんこからは、精液^{せいえき}が ポトポト

と たれています。

「んっ・・・たくさん だされちゃった・・・」

魔女^{まじょ}は すこし つかれた ようすです。



ゴブリンたちが いなくなると、 こんどは ^{おお}大きな 2
^{ふた}匹の ホブゴブリンが、 ^{まじょ}魔女のにおいを かぎつけて
やってきました。
2匹は ^{まじょ}魔女を ^み見つけると、 らんぼうに だきあげ
ちんぽを つきたてました。



おとなしく たえる ^{まじょ} 魔女ですが、 のどの おくまで
ちんぽを 入れられて、 とてもくるしそうです。
そんなことなど おかまいなしに、ホブゴブリンたちは
ようしゃなく ^{こし} 腰を うちつけます。
やがて ホブゴブリンたちは ひくひくと けいれんし、
ドロドロの ^{せいえき} 精液を ^{まじょ} 魔女に そそぎこみました。



のこらず 射精^{しゃせい}された 魔女^{まじょ}の 口^{くち}と まんこからは、
ポトポトと 精液^{せいえき}が たられています。
「ギジ... オマエノ ニオイ 覚^{おぼ}エタゾ... マタ見カ
ケタラ 犯^{おか}シテ ヤルカラナ」
そう言^いうと、 ホブゴブリンたちは 満足^{まんぞく}そうに どこか
へ 行って いました。



よごれた からだを 洗うため、^{まじょ}魔女は みずべに
やってきました。

すると とつぜん、みずの なかから たくさんの ^{しよく}触
^{しゃ}手を もった ^{まもの}魔物が あらわれました。

^{まもの}魔物は ^{まじょ}魔女の からだに からみつき、^{せいしよくき}生殖器のよう
な ^{しよくしゃ}触手を くねくねと うごかしています。

^{まじょ}魔女は つれから じぶんが なにをされるのか、よう
いに そうぞう できました。



まじょ ちつ 魔女の 膣や アナルに、無理やり せいしょくき 生殖器が ねじこ
まれました。

なか なか 魔物の 触手が はげしく うごま
わります。



触手の うごきが さらに はげしくなり、 魔女の か
らだに 大量の 精液が そそぎこまれました。
射精しながらも 触手の うごきは はげしく うねり
つづけます。



このあと 2時間 ほど 犯されて、ようやく 触手が
ら 解放されました。
たてつづけに 犯され ている 魔女は、さすがに つ
かれきった ようです。



しばらく^{まじょ}魔女が やすんで いると、 そこに おおきな
からだをした、 トロールが やってきました。

トロールは らんぼうに、 ^{まじょ}魔女を りょうてで もちあ
げます。

「ゲフ・・・メスノニオイ・・・コノ^{まじょ}魔女、カワイイ^{みお}顔・・・
オマエ、オレノ オナホニ スル・・・」

トロールは とても こうふんした ようです。



トロールは おおきな ^{した}舌を ^{まじょ}魔法のまんこに ^{ねじこ}ねじこ
みました。

^{まじょ}魔法のおなかが ^{ぽっこり}と ^{ふくれあがる}ほど、ト
ロールの ^{した}舌は おおきく、^{ちつない}膣内を ^{おくまで} ^せ攻めた
てます。



「あんっ！ そんなとこ舐めたら きたないよっ」
そんな 魔女の^{まじょ}声も とどかないほど、トロールは 夢^む
中で まんこを なめつづけます。
トロールの はげしい^せ攻めに がまんできず、とうとう
魔女は 絶頂^{ぜっちょう}して しまいました。



魔女が絶頂したと みるやいなや、トロールは まんこ
に すいつきました。

「グフゥ・・・魔女の膺・・・ウマイ・・・ゼンブ吸イダ
ス・・・」そう 言いながら、夢中で愛液を のみこん
でいます。



しつこく ^{した}舌で かきまわされた ^{まじょ}魔女の まんこは、
ぱっくりと ひらいて とじません。

「ダイブ マンコホグレタ・・・チンポイレル・・・オナ
ホニスル・・・！」

トロールの ごうふんは、 もう おさまりそうに あり
ません。



トロールは 魔女の手足を がっしりと つかんで、ちんぽを まんこに おしつけます。

「こんなに 太いの 入れられたら、おなか こわれちゃいそう…」

魔女はちょっと ぷあんそうです。



トロールは 魔女のちいさな からだに、無理やり ちんぽを ねじこみます。

「ゲフッ・・・！マンコノ中、アッタカイ！・・・オナホ・・・キモチイイ！」

もはや魔女は トロールにとって、かんせんに オナホール あつかいです。



トロールは がっしりと つかんだ ^{まじょ}魔女を オナホー
ルのように ^{しょうげ}上下に うごかし、ちんぽを しごきつづ
けます。

「ウグゥッ！^{まじょ}魔女ノマンコ・・・キモチイイ！・・・モウ
^で射精ル！」

トロールが そう叫ぶと、^{まじょ}魔女の おなかに たいりょ
うの ^{せいえき}精液が そそぎこまれました。



トロールは、ちんぽを 魔女のおなかの中で ビクビク
と 脈打ち、精液を さいごの一滴まで 出し切りました。

魔女のまんこからは、ドロドロとした 精液がたれなが
れています。



じゃぼん！と ^{おと}音をたてて、^{まじょ}魔女の まんこから ちん
ぽが ひきぬかれました。

まんこからは、^{たいりょう}大量の^{せいえき}精液が たれています。

「グフー・・・キモチヨカッタ・・・コノオナホ、^す巢二
モッテカエル・・・」

^{まじょ}魔女は そのまま、トロールの^{すあな}巢穴に つれまられて
しまいました。



トロールは ^{まじょ}魔女を ^{すみな}巢穴に つれてむと、^{てあし}手足を ^{くさり}鎖
で つなぎ、 みうごきを とれないように しました。



トロールは その 巨大な ちんぽを 魔女のまんこに
おしつけながら 言いました。

「ゲフ・・・サッキノ ツツキ スルゾ・・・」

まだまだ トロールの 性欲は おさまって いなかっ
た ようです。



何度も ちんぽを 出し入れ されて、ひろがってし
まった 魔^{まじょ}女のまんこに、ふたたび チンポが 入れら
れました。

「ゲフッ……ヤッパリ コノ オナホ、キモチイイ……！」
トロールは、みうぎきの とれない まじょに、よう
しゃなく ちんぽを つきたてます。



トロールの 攻めは どんどん はげしさを します。

「あっあんっ・・・ おなか くるしいっ・・・！」

あまりの はげしさに、 魔女は くるしそうに たえて います。

「ゲフ・・・中ニ出スゾ・・・！」

トロールは、 そう言うと 大量の精液を、 魔女のまん こに ながしてみました。



トロールの ちんぽは、^{まじょ}魔女の おなかの ^{なか}中で ビク
ビクと ^{みやくろ}脈打ちながら、^{せいえき}精液を ^だ出しつづけます。
^{せいえき}精液を ^だ出しきるまで、トロールは ^{まじょ}魔女の まんこか
ら、ちんぽを ひきぬこうとは しませんでした。



ようやく 精液を 出しきった トロールは、ゆっくり
と ちんぽを ひきぬきました。

魔女の まんこ からは、大量の 精液が ながれだ
し、 滝のように こぼれおちます。



やす
休むまもなく こんどは 3体の トロールが、 巢穴の
おくから のそのそと やってきました。

「オマエダケ ズルイ！ オレたちも 魔女ノ マンコ
ツカウ！」

トロールたちは、すでに 勃起している ちんぽを、
魔女にむけながら 言いました。



トロールたちは ようじゃなくて、^{まじょ}魔女に ちんぽを つ
きたてます。

「うう・・・トロールの ちんぽ、とても くさい・・・！
それに 3人^{にん}も いちどに なんて、ほんとに からだ
ごわれちゃうかも・・・」

たびかさなる レイプに、^{まじょ}魔女の^{たいりょく}体力は もう げんか
い でした。



魔法の ちいさく 若い からだで、 トロールたちは
ようしゃなく、 ちんぽを しごきつづけます。
そして いっせいに、 魔法に むけて 大量の 射精を
しました。
「すごい量・・・！ 精液で おぼれちゃいそう・・・！」
魔法は くるしそくに、 トロールの 射精に 耐えてい
ます。



トロールたちの 大量の 射精に 耐えた 魔女は、い
まにも きせつ しそうなほど、つかれきっていました。

「ゲフッ・・・魔女ノ マンコ、キモチヨカッタ・・・！
デモ、マダ 射精シタリナイ・・・モット 犯ス・・・！」
まだまだ トロールたちの 陵辱は、おわりそうに
ありません。



3週間ものあいだ、魔女はトロールたちの肉便器
としてつかわれつづけました。
そしてとうとうちからつきて、森にすてられて
しまいました。



すると そこに、^{いぜん}以前 ^{まじょ}魔女を ^{あが}犯した ゴブリンが
やってきました。

ゴブリンは ^{まじょ}魔女が ^い生きているか どうかなど ^{かく}かく
にん すること ^{せうよく}なく、性欲の おもむくまま ^{あが}犯し
はじめました。



しばらくすると、もう1匹のゴブリンもやってきて、
こんどは魔法の口を犯します。
2匹は気持ちよさそうに、腰をへこへことうごかしつづけ、
そのいきおいはだんだんとはげしさをまします。



やがて ゴブリンたちは 絶頂し、 ながい陵辱で よご
れきった 魔女の からだを、 さらに 黄ばんだ 精液
で よごしました。

びくりとも うごかない 魔女に、 そのあとも 2匹は
何度も 射精し、 性欲が つきるまで 犯し つづけま
す。



ふっかつして、^{いえ}家に ^{なん}かえるまでの あいだにも、何
^ど度も ^{まもの}魔物に ^{あか}犯されて ^{まじょ}魔女の からだは ぼろぼろ
です。

^{かげつ}1ヶ月ぶりに ^{いえ}家に たどりつき、^{まじょ}魔女は ^{あんしん}安心したよ
うに ^{ねむ}ふかい 眠りに つきました。

さすがの ^{まじょ}魔女も、^{かげつ}1ヶ月 ^{いろいろ}色々な ^{まもの}魔物に ^{あか}犯され
つづけたのは はじめてで、 こりたようです。

「^{まもの}魔物に ^{あか}犯されるのは ^{きら}嫌いじゃないけど、 ^{しばらく}しばらく
は ^{せと}外にでるのは ひかえよう。」

そう思う ^{みも}魔女でした。

おしまい。





さるがま魔女

絵本風CG集